


記入用紙

下記について、該当する項目に○、もしくはカッコ内に回答をご記入ください。

1 ご自身について ※主なものにひとつだけ○を付けてください。	
(1)ご住所	1.青葉区内(町丁目: _____) 2.青葉区外(市区町村名: _____)
(2)ご年齢	1.9歳以下 2.10代 3.20代 4.30代 5.40代 6.50代 7.60代 8.70代 9.80代以上
2 駅またはその他の目的地までの移動について ※主なものにひとつだけ○を付けてください。	
(1)主な行き先	1.青葉台駅 2.長津田駅 3.田奈駅 4.藤が丘駅 5.こどもの国駅 6.恩田駅 7.玉川学園前駅 8.鶴川駅 9.その他(駅名・具体的な目的地名: _____)
(2)(1)への移動目的	1.通勤 2.通学 3.買物 4.通院 5.その他(_____)
(3)(1)への主な移動手段 <small>※路線バスを選択された方は、系統名にも○をつけてください。</small>	1.路線バス(青61系統・青56系統・青118系統・青55系統・他系統) 2.送迎バス(路線バス以外) 3.タクシー 4.自家用車 5.自転車・バイク 6.徒歩 7.その他(_____)
(4)(1)への移動頻度	1.週5回以上 2.週3~4回 3.週1~2回 4.その他(_____)
3 バス路線を維持していくための取組について ※該当するものにひとつだけ○を付けてください。	
(1)2, 3ページ目に記載の「連節バスの導入による乗務員等の経営資源を他の路線に再配分することで、エリア全体のバスネットワークを可能な限り維持する」取組は、必要だと思いますか。	1.必要 2.どちらかといえば必要 3.どちらかといえば必要ない 4.必要ない
(2)(1)の回答の理由をお書きください。 ※(1)で「どちらかといえば必要ない」「必要ない」と回答された方は、必ずご記入ください	
4 青56系統について ※望ましいと思うものにひとつだけ○を付けてください。	
<p>今回2, 3ページ目に記載した再編案では、青61系統に連節バスを導入し、輸送力を確保しながら乗務員等の経営資源を生み出すこと、青56系統を短絡化することで運行を効率化することを基本としています。</p> <p>案Aは全ての便を短絡化したもの、案Bは青葉台駅を起点とした路線を残すものです。なお、案Bの場合、路線維持のためには便数は下記のとおりとなり、青葉台駅直通便は運行距離が長い路線であるため運行間隔は広がります。</p>	
	1.案A 2.案B 3.その他の案 (下記意見欄にご記入ください。)

現在		案A	案B
368便	青葉台駅~日体大	連節バス導入により輸送力を維持します。	
13便 <small>(赤字路線で路線維持が難しい)</small>	青葉台駅~緑山循環	無し	2便程度 <small>(朝9~11時頃1便 夕15~17時頃1便)</small>
無し	日体大~緑山循環	20~25便 <small>(約40~60分間隔)</small>	15~20便 <small>(約40分~2時間40分間隔)</small>
経路図			

※運行間隔等は想定であり、変更となる場合があります。

その他、この意見募集の内容に関するご意見を自由にご記入ください。 ※書ききれない場合、別途紙面をご用意いただき、ホッチキス止めにてご回答いただくことも可能です。

4 ※アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

青葉区北西部で バス路線を維持していくための取組について ご意見をお聞かせください

横浜市と東急バス株式会社(以下「東急バス」)は、青葉区北西部におけるバス路線の維持に向けた取組を進めており、連節バス導入による主要バス路線の運行効率化と、それにより生じた経営資源をその他の路線へ再配分し、**エリア全体のバスネットワークを維持する取組**を検討しています。2, 3ページに取組の概要を記載していますので、この取組の実施を想定してご意見をお寄せください。

募集期間・回答方法・お問合せ先

募集期間 令和4年12月3日(土)から令和5年1月31日(火)まで(当日必着)

回答方法 次の①または②の方法によりご意見をお寄せください。
可能な限り①ウェブサイトからの回答のご協力をお願いします。



①下記ウェブサイトのアンケートフォームからご回答ください。
バス路線の維持・充実にに向けた走行環境整備事業(青葉区北西部) ウェブサイト:
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kotsu/bus_kotsu/soukou/aoba.html
右の二次元バーコードを読み取ることで、ウェブサイトへアクセスいただくこともできます。

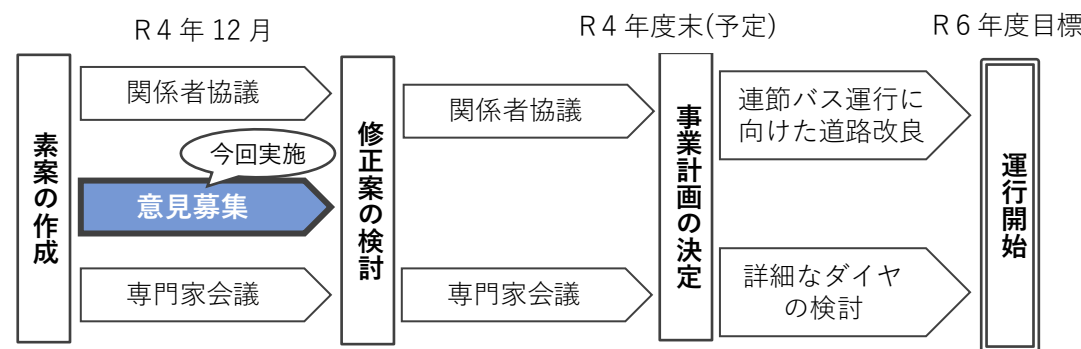
②4ページの記入用紙にご記入いただき、下記の「ご提出先」まで、郵送、ファクス、Eメール、直接ご持参にて、記入用紙をご提出ください。(記入用紙はコピーでも構いません。また、上記ウェブサイトからダウンロードもできます。)

- | | |
|---|--|
| <p>ご提出先1 お問合せ先</p> <p>横浜市道路局企画課(交通計画班)
〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10
電話: 045-671-3800 ファクス: 045-651-6527
Eメール: do-koutsuu@city.yokohama.jp</p> | <p>ご提出先2 持参のみ</p> <p>横浜市青葉区区政推進課(区役所4F73番窓口)
〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町31番地4
電話: 045-978-2217</p> |
|---|--|

ご提出先3 持参のみ ※下記施設には紙のアンケート用紙の配架もごございます。ご活用ください。
下記施設にもアンケート回収ボックスを設置しております。
・青葉台駅PRボックス ・田奈駅PRボックス ・青葉台郵便局 ・鴨志田郵便局 ・青葉区区民交流センター
・奈良地区センター ・奈良地域ケアプラザ ・恩田地域ケアプラザ ・青葉台地域ケアプラザ
・若草台地区センター ・鴨志田地域ケアプラザ

取組スケジュール・意見募集の位置づけ

現在、東急バスが作成した素案について、関係者協議や専門家会議でご意見を伺っており、並行して、この意見募集により広くご意見を伺うものです。

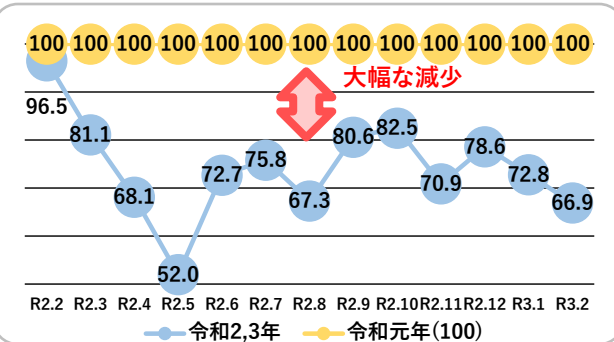


取組の背景

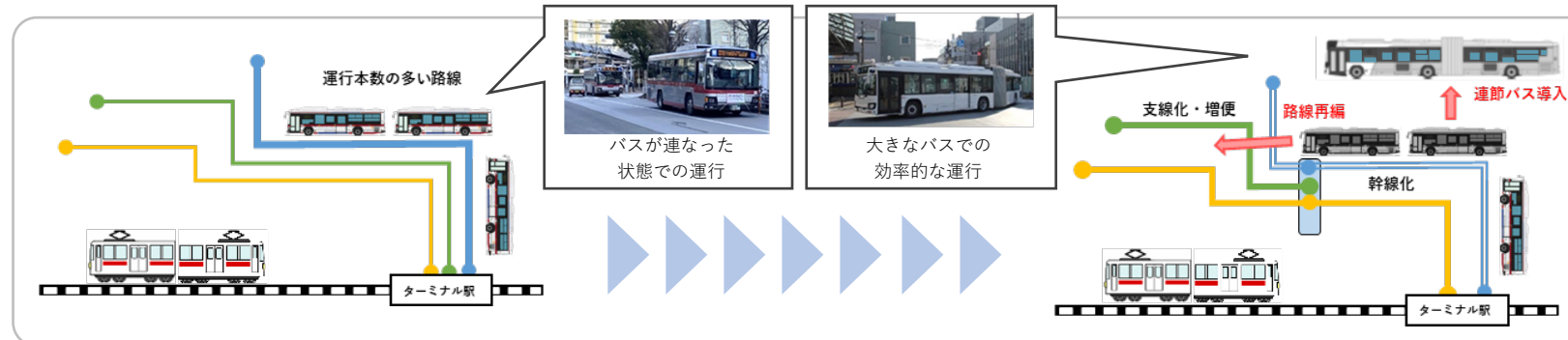
利用者の減少と乗務員不足によるバスサービス水準の低下

近年、少子高齢化や生活スタイルの変化等により、バスの利用者は減少しています。また、大型二種免許保有者の減少・高齢化により、バス乗務員も不足しており、利用実態に合わせたバス運行便数の調整（減便等）が必要な状況です。

加えて、コロナ禍によるテレワークや外出を控える傾向もあり、路線バスの収支状況はより厳しい状況になっており、利用者の減少→収支悪化→減便→さらなる利用者の減少という悪循環が生じかねません。



コロナ禍による利用者の減少
(関東管内の路線バス輸送人員の推移：令和元年基準)



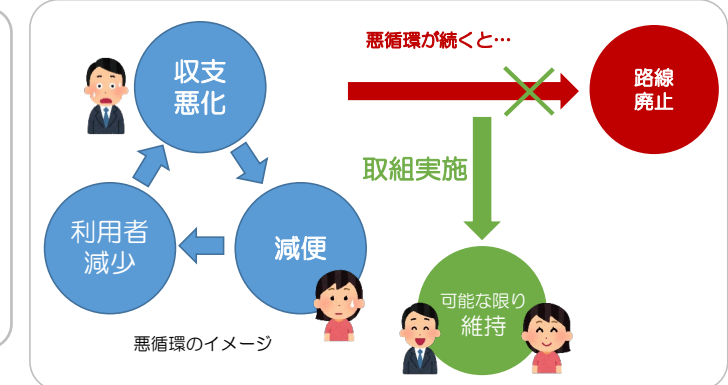
取組の実施イメージ

目指すもの

運行効率化と再配分によるバスネットワークの維持

そこで、横浜市と東急バスは、運行本数の多い路線に**連節バスを導入し、輸送力を確保しつつ許容できる範囲で便数を減らすこと**で、生み出された**バス事業者の経営資源を他の路線に再配分し、エリア全体のバスネットワークを可能な限り維持**することを目指しています。

※収支改善のため、利用実態に合わせた減便等が避けられない状況であり、連節バスを導入しても、将来的にはエリア全体のサービス水準が今より低下する可能性もあります。



取組を実施する路線と実施内容の全体像（案）

※実施する取組の内容や停車するバス停、運行間隔等は現時点での想定であり、関係者との協議や、将来的な利用状況に応じて変更となる場合があります。

現状 青葉区北西部 バス路線の現状

- 【青61系統】
 - ・利用人数が多く、高頻度で運行している路線です。
 - ・高頻度の運行であるため、**乗務員の確保が課題**となっています。
- 【青56系統】
 - ・乗務員不足に加え、周辺路線と比較し、**利用者が非常に少なく、運行距離が長い路線**です。
 - ・赤字路線であり、**取組が行われないと減便、廃止の可能性が高い状況**です。
- 【青55系統・青118系統】
 - ・利用人数の減少や乗務員不足により、**利用実態に応じた利用便数の調整（減便等）が必要な路線**です。**取組が行われないと減便の可能性が高い状況**です。



基本の取組

青61系統 連節バスの導入

乗車定員が約1.8倍の**連節バスを導入し、輸送力を確保しつつ許容できる範囲で運行便数を減らすこと**で、**バス事業者の経営資源を生み出します**。
また、連節バスが安全に停車できるようにするため、停留所の幅広工を行います。

	取組前	取組後
朝	4～5分間隔	5～7分間隔
昼	4～7分間隔	5～8分間隔
夕	5～8分間隔	5～9分間隔



連節バスを導入し、生み出された経営資源で周辺路線の強化や維持に取り組みます。

取組1

青56系統 乗継を伴う路線の維持

- ・**起点を青葉台駅から日体大に変更し、運行を効率化**します。
- ※奈良橋、徳恩寺前、内田の3停留所は東急バスの路線は運行しなくなります。
- ・日体大での乗継を伴いますが、**増便し、運行間隔を約40～60分間隔に**します。
- ※日中4時間運行していないダイヤを解消します。

取組前	取組後
約1～4時間間隔（13便）	約40～60分間隔（20～25便）

取組前	取組後
約28分	約28分+乗継時間

●乗継負担を軽減する取組について

- ・日体大が**バリアフリー対応の待合施設を整備**する予定です。
- ・(新)青56系統⇄青61系統の乗継において、**新たな運賃負担は生じない**予定です。(ただし、ICカード利用に限ります。)
- ・「青葉台駅⇄日体大」路線は、5～9分間隔で運行していますが、乗継時間が最低限となるような**運行ダイヤの工夫**を行う予定です。

※ 青56系統の再編案については、4ページに2案掲載しております。望ましいと思うものをご回答ください。

取組2

北西部周辺路線（青55,青118）路線の維持

利用者の減少や乗務員不足により、減便等が必要な東急バスの路線について、**運行本数を維持**します。

取組前	取組後
減便等の可能性	運行本数の維持